



武州八王寺宿めて縁々年々も

と九折を吹さるふふ女按摩

世を言目目の闇をよぶ半葉も箱の

細音をたつけよるる雄鹿の真似あぬ

馬鹿ゆゑやうに入り男モシゆんまさん私と

一緒ゆ来て下さると同道して畑の中へつれ往て

強て無心を云々たつれお抄へる否と男ふ

喰つて血で白を引うく騒きもやを落

つと此をあらへつと証取と其夜の互ひふ

引とるれ翌日抄へる半余の母をつれ同宿寺町の

佛師やへ来て昨晚此家の旦那が畑ゆて否と

いふのをむややふ承知を嫁ふしやと約束せし証取

そつち小搔き疵と此をこ入かつらうら間をひまいとつらうらまき

此家の驚駭し家まひとつと中しくたつれは果なをう

あるおけ近所の者もつらうらて証取をさる

豈えうらん此辺の

喜三といふ男の

ねをこ入とりの

男の負ふらうら

新編 浮城

九折

九折

事つらうら

やうくおとら

海へれど箱

の付ける仏師

垢ぬきし

兼知せ

ナント喜三といふ取はりの耻

でありやせん

大錦 新編 浮城 巻三

